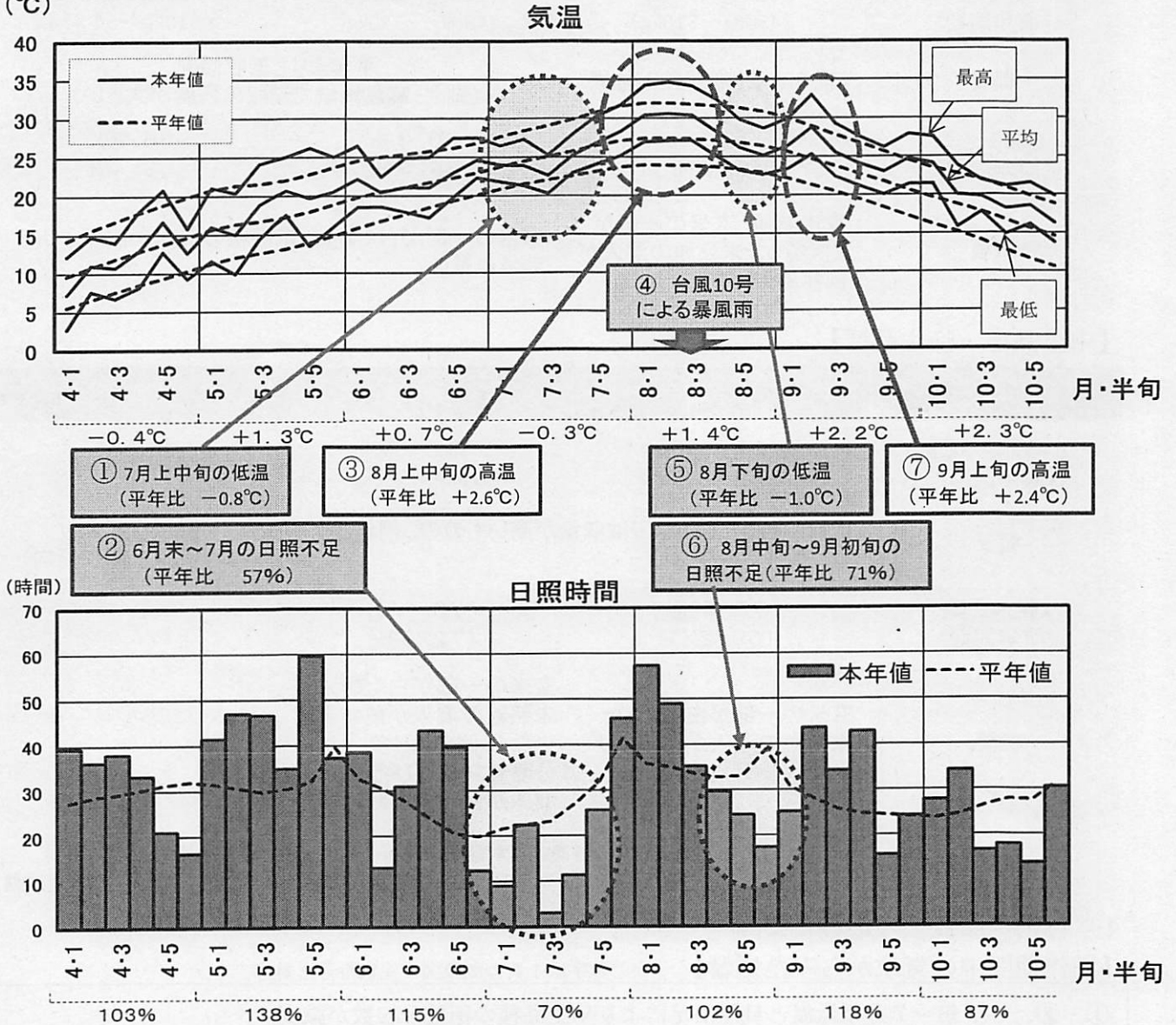


# 令和元年産米の作柄・品質と今後の対策について

## 1 稲作期間中の気象(彦根気象台観測)

(°C)



## 2 作柄・品質の状況

1) 作況指数 (12月10日現在・農水省公表)

		予想収量 (kg/10a)	作況指数 (前年同期)
滋賀県	全 県	509	98 (99)
	湖南	517	98 (99)
	湖北	491	98 (99)
近 畿		503	99 (99)
全 国		528	99 (99)

2) 1等米比率 (10月31日現在・農水省公表)

	1等米比率(%)		
	元年産	前年同期	前年最終
滋賀県	59.1	70.4	66.8
近畿	58.3	67.3	66.7
全国	72.9	82.2	80.5

※水稻うるち・全銘柄平均  
 ※前年最終は H31年3月末現在

### 3) 品種別の状況

#### 【早生品種】

	みずかがみ	コシヒカリ	キヌヒカリ
10aあたり収量 (前年同期)	450kg～540kg (450kg～510kg)	450kg～540kg (480kg～540kg)	480kg～540kg (510kg～540kg)
概要	前年よりも収量差が拡大	平年よりも低収傾向 (湖北・高島地域で減収の程度が大きい)	
1等米比率 (前年同期)	78.7% (89.9%)	50.1% (69.3%)	36.8% (53.4%)
概要	青未熟粒、玄米の一部が 白く濁った未熟粒の混入が 前年より多い。	玄米の一部が白く濁った未熟粒の混入が前年より 非常に多い。	

#### 【中生品種・晩生品種】

	日本晴	秋の詩	酒米
10aあたり収量 (前年同期)	540kg～570kg (510kg～540kg)	570kg～600kg (510kg～540kg)	240kg～480kg
概要	低収であった前年よりは収量が高いものの、例年と比べると並～やや少ない		品種間差あり (吟吹雪で低収傾向)
1等米比率 (前年同期)	75.6% (69.2%)	70.9% (72.8%)	—
概要	玄米の一部が白く濁った 未熟粒の混入が前年より 少なく、例年より多い。	玄米の一部が白く濁った 未熟粒の混入が前年より 少なく、例年より多い。部 分着色粒(くさび症状)の 混入が例年より多い。	—

※収量は各農業農村振興事務所の生産者等に対する聞き取り結果

※1等米比率は10月31日現在の農水省公表値、( )は前年同期

### 4) 作柄・品質への影響と要因

#### 【稲作期間中の気象からみた影響】 ※○数字は1頁の気象図の注釈番号と対応

- ①・② 6月下旬～7月の低温と日照不足により早生品種の穂数・粒数が減少
- ③ 8月上中旬の異常高温により早生品種に白未熟粒等が多発し品質が低下
- ④ 台風10号(8月14日)により早生品種(「みずかがみ」、「コシヒカリ」)が倒伏し、収量・品質が低下。穂揃期に重なった「秋の詩」で穂ずれにより部分着色粒が発生、「吟吹雪」では不稔粒が発生
- ⑤・⑥ 台風通過後の長雨、低温、日照不足の影響で早生、中生品種の稔実が阻害
- ⑦ 9月上旬の高温により中生品種で白未熟粒等が発生

#### 【栽培面からの影響】

- ・安定栽培のための土づくりが不十分(土づくり資材投入率30%・全農の資材供給ベース(面積換算))
- ・気温の変動が激しく、穂肥時期に肥料が期待通りに溶出せずに栄養不足(普及率60%の全量基肥栽培)
- ・出穂前後(7月下旬、8月上旬)の湛水管理が不十分
- ・倒伏の影響から、収穫前に早期落水されるケースが多くなった

### 3 今後の対策

- ☞ 気候変動に対応した栽培管理の実践が必要！
  - ・土づくり等、基本技術の徹底に向けた技術指導の強化
  - ・水稻の生育状況と栄養状態を把握するための診断技術の高度化
  - ・気候変動に応じた栽培管理に関する迅速な情報提供と実践に結びつける生産体制づくり
- ☞ 気候変動に適応する技術の体系化と新品種の育成が必要！
  - ・水田の地力をきめ細かく把握するとともに、肥料の効果を最大限に発揮するための施肥、水管理方法等の検討
  - ・高温に強い品種の開発と普及
  - ・酒米の生産安定

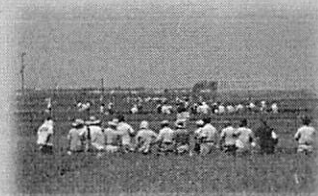
#### 【具体的な取組】

##### ①基本技術の徹底

- ☞ 土づくり、施肥、水管理、適期収穫等
  - ・地力等の分析結果に基づく土づくり肥料の投入
  - ・施肥田植機での規定量の確実な施肥
  - ・中干しと出穂前後の湛水管理の徹底
  - ・稲作技術指導指針を改定、産地の栽培こよみへの反映
- ☞ 研修会等での呼びかけ
  - ・近年の作柄、品質等に係る課題と対策を呼び掛け
  - ・生産者の気候変動への適応意識を高める



技術研修会



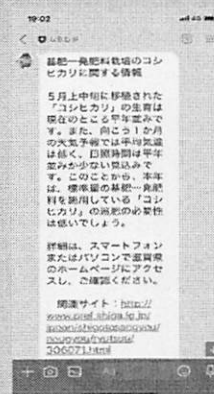
現地研修会

##### ②気候変動に適応した技術情報の発信と実践体制の強化

- ☞ 生育診断技術の高度化
  - ・幼穂形成期にドローン積載型カメラで水田上空から植生指数（NDVI）を測定
  - ・稲の生育量との関係から追肥の要否を判断
  - ・技術情報としてとりまとめ
- ☞ 技術情報の発信と検証
  - ・県域および地域での対策会議で情報を共有
  - ・「しらががLINE」等のSNSで迅速な技術情報の発信
  - ・技術の実践状況の把握と検証



特殊カメラを搭載したドローン



しらががメールによる情報発信

## 【具体的な取組（つづき）】

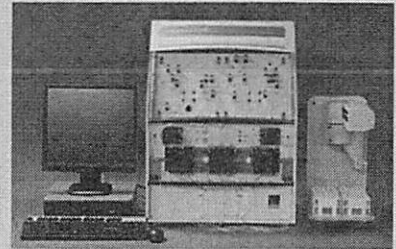
### ③地力見える化と施肥体系の検討

#### 最新の地力の把握

- ・無機態窒素自動測定装置を活用して効率的に地力を分析
- ・地力の水準を3段階に分類
- ・将来的にデジタル端末上で広域情報として可視化

#### 施肥方法の検討

- ・地力に応じた施肥体系の検討
- ・目指す米づくりに応じた施肥方法の提示



無機態窒素自動測定装置

### ④気候変動に適応する品種の開発と普及

#### 登熟期間の高温に強い新品種の育成

- ・DNAマーカー選抜育種の加速化
- ・中生品種の育成



個体・系統  
選抜ほ場

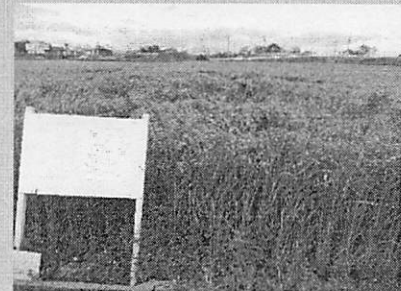
### ⑤酒米の安定生産

#### 安定生産に向けた技術実証

- ・肥料切れを起こさない施肥技術の実証
- ・ケイ酸カリ等の資材利用の効果検証
- ・研修会での技術指導

#### 新品種の開発

- ・栽培と醸造適性に優れた品種の育成



酒米の技術実証ほ